

1. 申請者

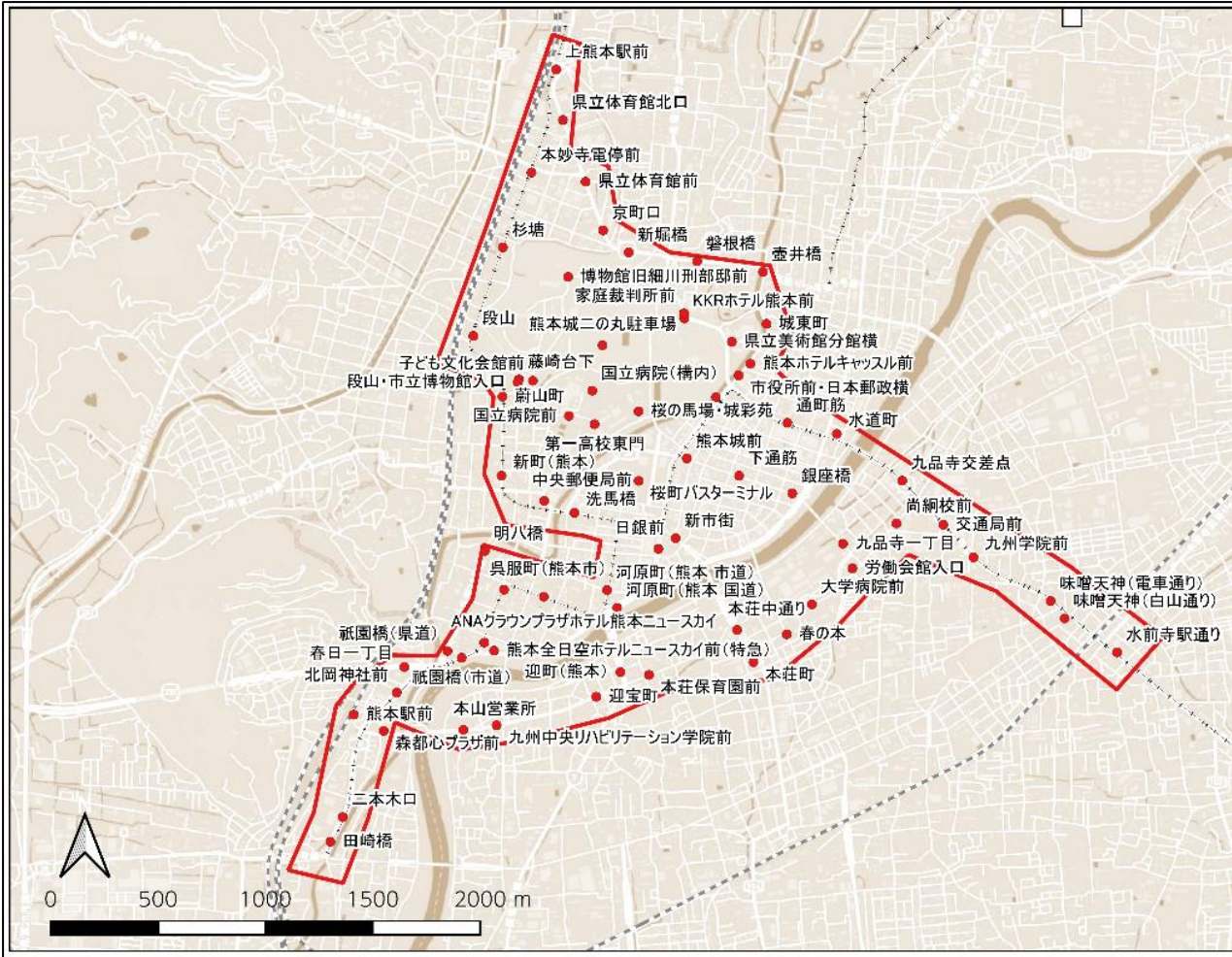
- ・九州産交バス(株)
- ・産交バス(株)
- ・熊本電気鉄道(株)
- ・熊本バス(株)
- ・熊本都市バス(株)

2. 実施期間

共同経営計画が認可された日以降～3年間

3. 計画区域

熊本市都心部の下図の赤枠：市電並走区間（新水前寺～上熊本・田崎橋）のバス運賃を180円均一とする。



■計画区域■

4. 対象路線

計画区域内に乗り入れる申請者の路線バス（70路線）

■行為対象路線■

路線	運行事業者	路線	運行事業者
県庁沼山津・木山線	九州産交バス	通潤山荘線	熊本バス
健軍沼山津・木山線		辺場線	
八反田線		御船甲佐線	
二里木線		健軍線	
東バイパス線		江津団地線	
供合線		セイラタウン線	
山鹿線		城南線	
植木線		宇土線	
富尾団地線		松橋線	
川尻市道線		志導寺線	
川尻国道線		下安見線	
熊本港線		段鶴線	
通町筋直行		画図線	
東無田御船線	産交バス	乙女線	
西里和泉線		中央病院線	
池ノ上線		田迎線	
白藤線		甲佐環状線	
県庁川尻線		はません環状線	
河内小天線		御幸木部線	
芳野線		第一環状線	熊本都市バス
植木玉名線		流通団地線	
たかもり号		中央環状線	
菊池線	熊本電気鉄道	長溝団地線	
立石線		本山車庫線	
新地団地線		八王寺環状線	
堀川楠線		子飼渡瀬線	
清水ヶ丘線		大江城西線	
楠団地線		上熊本車庫線	
高平団地線		花園柿原線	
藤崎宮線		上熊本県庁線	
県庁線		上熊本水前寺線	
		帯山線	
		島崎保田窪線	
		熊本駅県庁線	
		熊本駅保田窪線	
		小峯京塚線	
		渡鹿長嶺・東西線	
		熊本駅長嶺線	
		国立病院シャトル	

熊本市都心部における均一運賃の設定に係る共同経営計画の概要

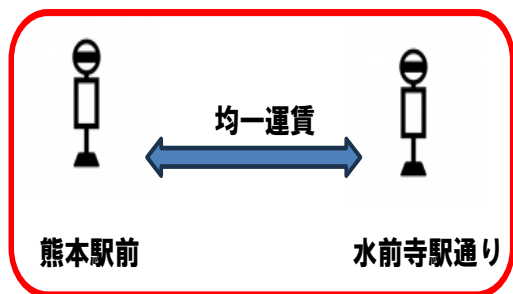
5. 共同経営の内容

5-1. 実施概要

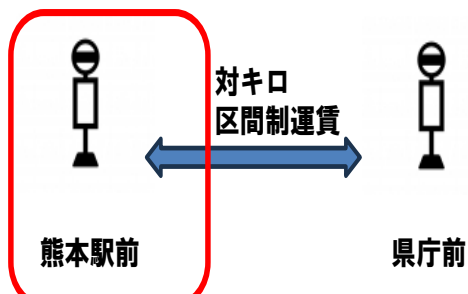
対象路線のうち、**対象区域内で完結する**路線バスの運賃を180円均一とすることにより、区域内を運行する路線バスと市電の運賃を同一にする。

現状では、対象区域内の路線バス運賃は、160円～280円となっているが、今後運賃改定を予定しており、改定後の対象区域内の運賃は180円～330円となる予定。**これを180円均一に変更する。**

エリア内で乗車・降車が完結する場合：180円



エリア内⇄外で乗降した場合



5-2. 基本的な考え方

- ◆ 路線バス利用者は30年間で約1/3に減少し、さらに新型コロナウイルス感染拡大の影響によって状況が深刻化したため、路線維持が極めて困難な状況に直面している。このため県内バス事業者5社は、令和3年3月以降、熊本市内5方面の重複区間の効率化と待ち時間の平準化を行う熊本地域乗合バス事業共同経営計画の策定を始め、共通定期券の実施等共同経営事業を展開している。

- ◆ 一方、熊本市の主要幹線である電車通りでは以下3点が課題となっている。
①市電はピーク時供給不足、バスは全時間帯過供給、②市内都心部は運賃・所要時間等同等のサービスにも関わらず需要が市電に偏っている③市電とバスの一括した情報提供がなされていない、といった点があげられる。

参考) 新水前寺駅～市役所前の運賃と所要時間

市電：180円、14分 バス：170円、11～14分

- ◆ 都心部における路線バスの均一運賃制の導入により、わかりやすく利用しやすい運賃体系を実現し、バスと市電が連携し「路線」「運賃」「乗継拠点」「情報提供」の観点から、他にも様々な改善策を実施することによって、持続可能な交通体系の再構築に繋げるものである。

5-3. 区域設定の考え方

- ◆ 交通結節点である3駅（熊本駅、上熊本駅、新水前寺駅）と、中心市街地を結ぶ路線を運行区域として設定した。

6. 共同経営の目標

均一運賃の実施による運賃収入の増加により、5社の路線バス全体で年間約12百万円の収支改善を見込む。

参考) 熊本市都心部のバスと市電の連携策メニュー

市電：折返し運行による輸送力強化

バス：過供給区間の輸送の効率化

市電：運賃改定

バス：熊本市都心部に均一運賃制導入

結節点の機能強化

利用者目線に立った情報提供

路線

商品

運賃

サービス

乗継拠点

快適性

情報提供

分かりやすさ